

成果指標 4. 冬期の快適性確保率

冬期においても、快適な日常生活や経済社会活動ができる道路整備が求められています。このため、冬期の走行快適性を示す成果指標として、地域連携道路における整備済み延長の割合を採用しています。

$$\text{冬期の快適性確保率} = \frac{\text{冬期快適走行確保に向けた整備の行われた道路延長}}{\text{地域連携道路の総延長}}$$

- * 対象道路：地域連携連絡（国道、県道）約 293km。なお、ダブルラダー指定路線については、成果指標 2「高速ネットワーク確保率」においてすでに評価対象としているため、対象道路から除きます。
- * 冬期快適走行確保に向けた整備の行われた道路とは、堆雪幅が確保された道路（車道幅員 8.5m 以上）、もしくは、消雪パイプやスノーシェッドの雪対策がなされた車道幅員 5.5m 以上の道路

成果に向けた取組み

■ 地域連携道路における冬期も快適に走行できる道路環境の確保

年間を通じての円滑な移動を確保するため、地域連携道路において、堆雪幅の確保や消雪パイプの整備等によって、冬期でも快適に安心して走行できる道路環境を確保します。

■ 人家が連続している区間や急坂路における冬期走行性の確保

人家が連続している区間や急坂路などにおいては、消雪パイプの整備・更新等により、冬期の快適な自動車走行性の確保を図ります。

■ 道路利用者への情報提供

路面監視カメラにより、リアルタイムに冬期の路面状況を把握し、インターネットで提供するなど、道路利用者への情報提供を進めます。

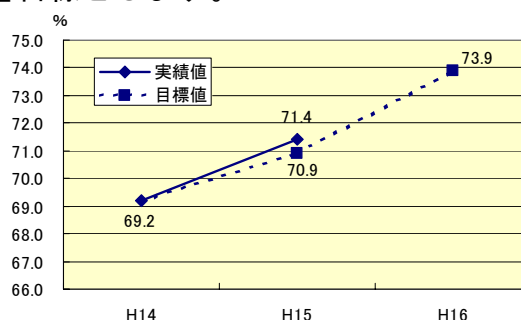
■ 住民との協働による歩行空間の確保

住民との協働による冬期の歩行空間の確保に向け、ボランティアサポートによる歩道除雪など、ハード・ソフト両面からの取組みを進めます。

成果指標の動向

- 冬期の快適性確保率は、平成 14 年度の 69.2%（202.9km）から、平成 15 年度の 71.4%（209.4km）へと 2.2%（6.5km）増加し、目標を達成しました。
- 平成 16 年度は、人家が連続している区間での消雪施設等の整備により、平成 14 年度実績から 4.7%（14.0km）の増加を目標とします。

平成 14 年度の実績		69.2% (202.9km)
平成 15 年度	計画	70.9% (208.1km)
	実績	71.4% (209.4km)
平成 16 年度の目標		73.9% (216.9km)



達成度報告（平成 15 年度の成果）

■ 平成 15 年度に供用した主な箇所

路線名	区間	延長	整備内容
①国道 159 号	かほく市高松	1.2km	消雪パイプ
②(主)金沢小松線	川北町山田先田～出口	1.0km	堆雪幅の確保
③(主)小松加賀線	加賀市篠原新	0.4km	堆雪幅の確保
④(主)鶴来美川インター線	松任市安吉	0.7km	堆雪幅の確保
⑤(一)七尾鹿島羽咋線	鹿島町芹川～井田	0.5km	消雪パイプ
⑥(一)倉部金沢線	松任市徳光～相川	1.1km	堆雪幅の確保

■ 人家が連続している区間や急坂路等における 消雪パイプの整備

	H14 末	H15 末計画	H15 末実績
消雪パイプ延長	約 369 km	約 380 km	約 381km

■ 路面管理の高度化と情報提供

冬期の路面状況の情報をパソコンや携帯電話でリアルタイムに提供します。

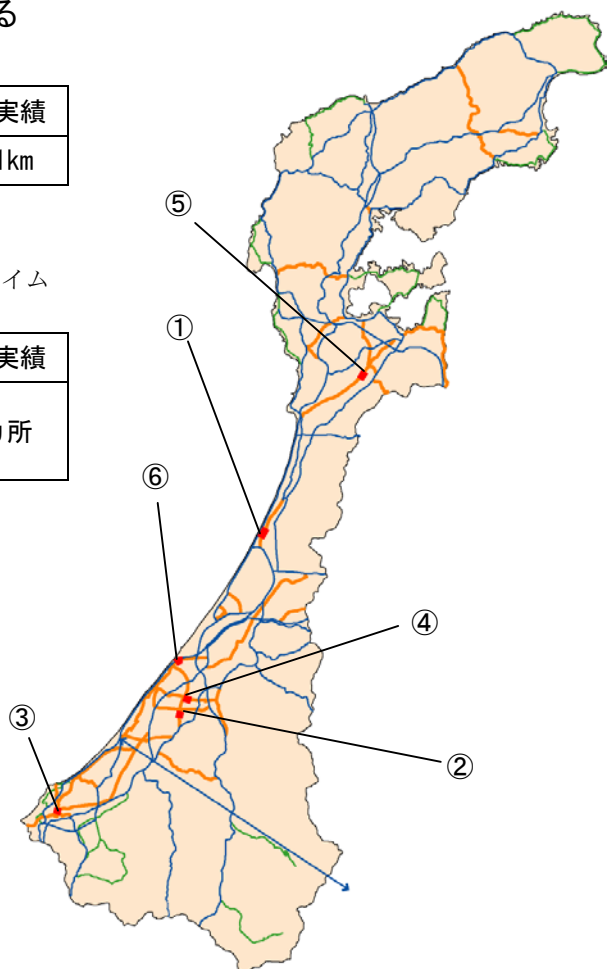
	H14 末	H15 末計画	H15 末実績
路面監視カメラ (CCTV) の設置数	82 カ所	133 カ所	135 カ所

冬期の歩行空間確保

冬期における自動車の快適な走行性の確保だけでなく、歩道の消雪施設の整備により、快適な歩行空間の確保を進めています。



(主)金沢田鶴浜線



業績計画（平成 16 年度の取組み）

■ 平成 16 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	区間	延長	整備内容
①国道 159 号	かほく市高松	1.8km	消雪パイプ
②(主)金沢美川小松線	根上町福島～大成	0.7km	堆雪幅の確保
③(主)金沢鶴来線	鶴来町小柳～月橋	0.8km	堆雪幅の確保
④(主)七尾羽咋線	鹿西町能登部 鳥屋町良川～末坂	0.7km	消雪パイプ

■ 人家が連続している区間や急坂路等における消雪パイプの整備

	H15 末	H16 末計画	増
消雪パイプ延長	約 381km	約 391km	約 10km

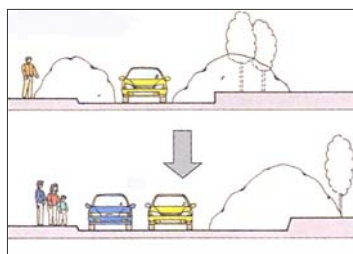
■ 路面管理の高度化と情報提供

	H15 末	H16 末計画	増
路面監視カメラ (CCTV) の設置数	135 カ所	141 カ所	6 カ所

■ 金沢市冬期バリアフリー計画

平成 16 年 3 月に策定された金沢市冬期バリアフリー計画では、公共交通の主要な結節点である JR 金沢駅や香林坊・武蔵ヶ辻バス停を中心とする概ね半径 1 km で囲まれた地区に、副都心地区、主要な病院までの路線を加えた範囲を、重点整備地区として設定し、冬期における安全で快適な歩行空間の確保を目指します。

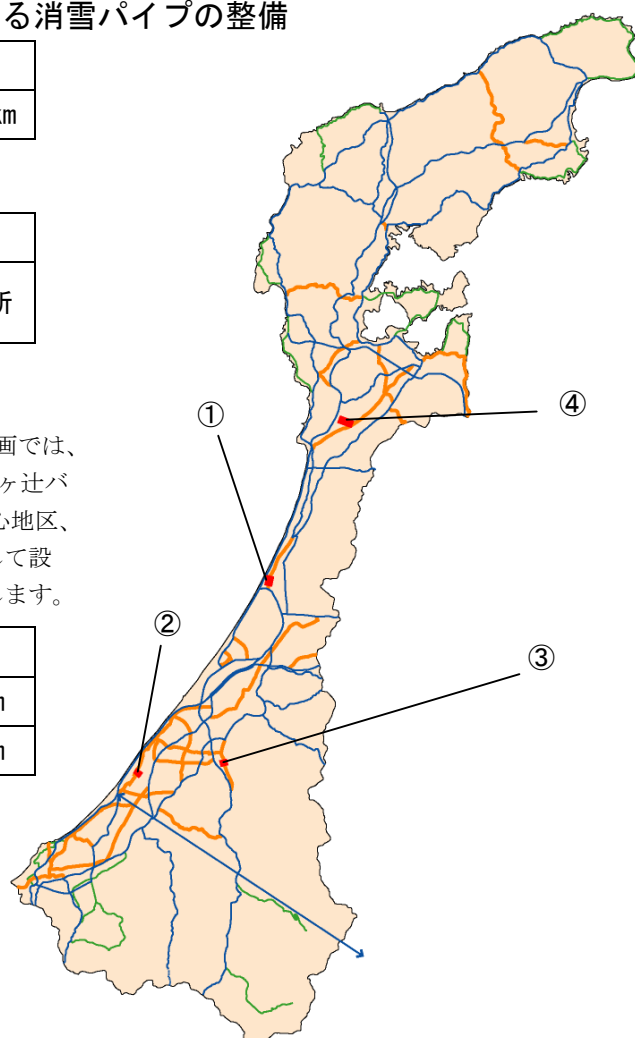
	H15 末	H16 末計画	増
歩道消雪整備延長	0.5km	2.1km	1.6km
歩道除雪延長	5.0km	8.9km	3.9km



金沢市香林坊



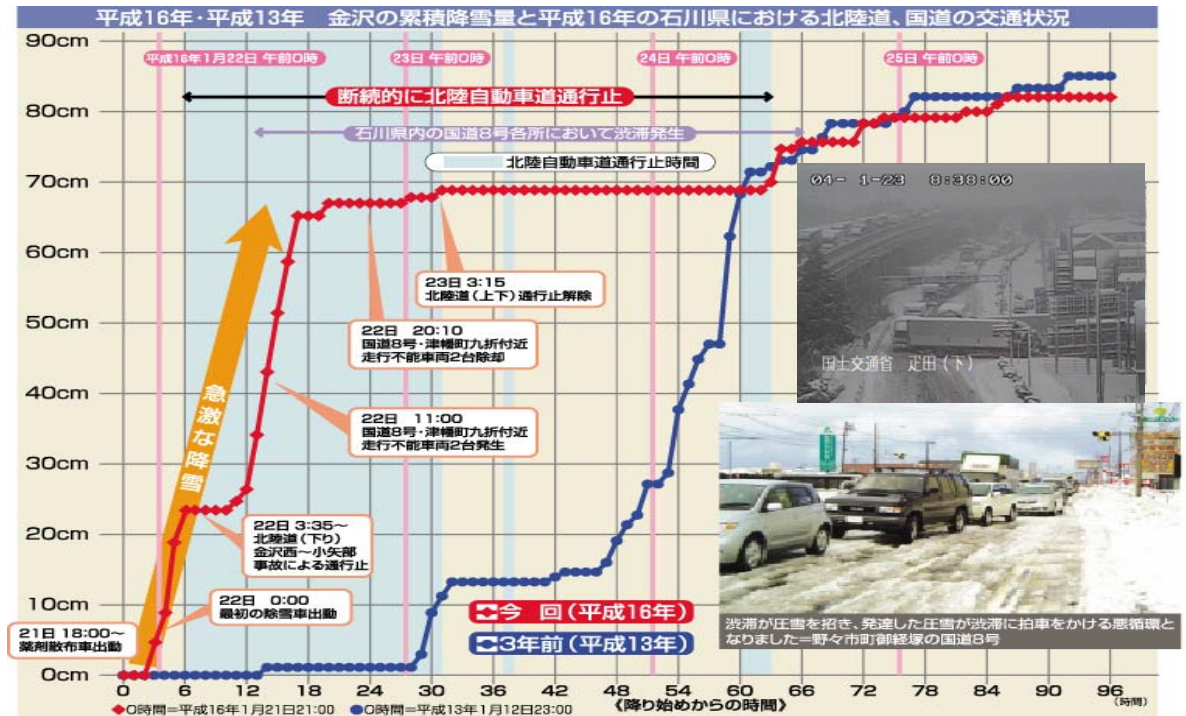
金沢市南町



■ H16 大雪を教訓に、除雪体制の検証・対策の実施

(1) H16 大雪の状況と除雪体制

- ・今回の大雪は、降り始めからの急激な降雪に特徴があり、18 時間後の累加降雪深は約 70cm に達しており、平成 13 年 1 月の大雪を大きく上回るものでした。これにより北陸自動車道は延べ約 30 時間も通行止めになり、国道 8 号も県内各所において渋滞が発生しました。



(2) 生きた教訓と新たな教訓

- ・H13 年の教訓を生かし、①朝ラッシュ前までに除雪を完了、②警察と連携し、全面通行止めを行い、効率的な除雪を実施、③消雪パイプの設置、④ラジオ、道路情報板を通じた情報提供や昼夜を問わない記者発表等、様々な対策をとりました。
- ・新たに、①関係機関との情報連絡体制強化、②主要幹線道路の渋滞・不通対策、③規制・事故防止対策の強化、④排雪場の確保が、教訓として生まれました。



大雪警報発令時には、国、県、県警等の関係者が参集し、情報の共有化を図る

(3) H16 大雪を教訓に、今後の対策を検討

- ・国、県、県警等が一同に参集する「石川県冬期交通対策検討会」を設置し、平成 16 年の大雪を教訓にして、具体的な実行計画の策定に取り組んでいます。

H16 大雪によって得られた新たな課題と対応方針

【情報対策】

- ①国、県、県警等関係機関相互の情報連絡体制
→情報連絡本部の設置
- ②大雪に備えた情報周知
→雪害発生前のユーザーへの情報周知の強化

【渋滞対策】

- ①主要幹線の渋滞、不通
→迂回経路としての「雪みちネットワーク」の設置
- ②オペレータの育成
→合同研修会の開催

【規制・事故対策】

- ①事故防止への効果的PR
→合同PRキャンペーン
- ②事故発生後の迅速な対応
→道路管理者間や大型車用レッカー保有団体と連携
- ③高速道路の通行確保
→通行止め回避・早期解除

【排雪対策】

- ①緊急時の排雪場確保
→金沢市内での新設
- ②特定排雪場への集中
→排雪場のエリア設定